

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を語りあげている	・基本理念を掲げ、職員がその理念に基づき、介護業務に努めている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・管理者は朝、夕のミーティングに出席しその都度、助言している。基本理念を玄関前に掲示しており、全職員が理念に向け、取り組んでいる。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・基本理念を玄関に掲示している。運営推進会議での報告をしている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	・行政主催のふじフェスタへ毎年11月に出店し参加している。 ・地域主催のお茶会への参加。畑作業を通し、近隣の農家と交流している。 ・年1回行政主催の総合避難訓練に参加している。 ・中学校の福祉体験学習の受け入れを行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・2ヶ月に1回実施され、活動・生活状況の報告、意見等を聞き、サービス向上に活かしている。</p> <p>・GH意見交換会の打ち合わせなどで藤崎町担当者と交流を図ることが出来ている。</p>	
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・更新手続き等、行政と積極的に連絡を取っている。</p>	
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>・権利擁護に関する仕組み・制度を文書で回覧し、自己啓発に役立てている。また、来年度の勉強会の題材としていく。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>・内部研修を行い、職員は理解・認識し行動している。</p> <p>・職員は虐待や身体拘束について常に意識している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所時の施設見学はもちろん、重要事項・契約についての説明を行い、署名・捺印をしている。また、制度・加算に対して変更があった際も随時説明を行っている。	
11	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・朝、夕のミーティング時、報告している。 ・広報誌を利用して外部者へ、運営に関する内容を発行している。	
12	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・広報誌の発行、各担当が連絡を取り合っている。 ・領収書のコピーを毎月、家族へ送付している。 ・金銭出納帳への記入。	
13	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情等があった場合は報告書として提出し、改善した内容を職員に回覧している。	・請求書を送付する際、記入用紙を入れ家族からの意見を取り入れていきたい。
14	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	・ミーティング時、意見交換している。又、年1回職務調書を記入し個人面談を行っている。	
15	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・特に利用者の家族が遠方において、帰省の連絡があった場合等、担当者が直接対応できる様、必要に応じて勤務勤務調整している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・人事移動は最小限に抑え、2年に1回実施している。 ・各担当の設置と副担当で対応している。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・外部研修会への参加を行っている。 ・施設内での勉強会、ケアマネージャー・介護福祉士の勉強会を長期に渡り開催している。</p>		
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・同業者との意見交換会を定期的で開催している。また、情報交換を行いサービスの質を向上させるために取り組んでいる。 ・ネットワーク研修会への参加。報告書を作成し、回覧している。</p>		
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・約2ヶ月に1回のペースで親睦会主催のスポーツ大会、食事会を実施し、各事業所等の相互理解に取り組んでいる。</p>		
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・年に1度、個人面談を行い、職員への助言や指導、運営者が時間を設け、話しやすい環境を作っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・入所前に自宅訪問したり、居宅サービス事業所から情報を把握できるよう努めている。</p> <p>・管理者、サービス提供責任者が面談を行っている。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>・すぐ入所ではなく、居宅サービスの利用状況や、本人の状態によっては、特別養護老人ホームも視野に入れながら対応している。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>・同事業所でのデイサービスの利用により、職員と交流を図る。また、入所前に施設見学をして頂く。</p> <p>・地域密着により、利用者間での顔見知りが多く安心できる。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>・調理や生活面においても利用者の意見を聞き、互助、自助、互助できる環境を築いている。</p> <p>・調理や下ごしらえなど、利用者に聞き共に行っている。また、生活面においても個人の意見を尊重し良い関係での生活が出来ている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・各行事への参加呼びかけ、推進会議の案内、月1回の料金収納時、面会を取り入れたり、家族との関係が疎遠にならない様取り組んでいる。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・行事(夏祭り他)、運営推進会議の開催時、家族の参加を促し、情報共有して支援している。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・面会者にとどまらず、電話や手紙で連絡を取り合える支援を提供している。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・ホール、食堂で談話できるスペースを確保し、とじこもらないよう、随時声掛け、誘導している。 ・折り合いが悪い利用者、話が合う利用者を把握しながら関わり合いができるよう援助している。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・やむを得ず、退所になった場合でも面会を含め、ケアマネージャー、家族、他事業所と情報交換が出来る。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・生活歴を把握することで一人ひとりに合った対応に取り組んでいる。 ・朝、夕のミーティング時に報告を受けた際は、担当が本人の意向を聞き、考慮し本人の意向を確認している。	
31	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所前に担当ケアマネージャーからの情報を得る。また、本人・家族と面談を行う事で把握できる様に取り組んでいる。詳細な生活歴は面会者に聞き取りを行っている。	
32	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・朝、晩記録を行い、日誌ケース記録に記載している。 ・個人のレベルを維持できるように、暮らしを支援するように、努めている。	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・担当が本人・家族の意見を取り入れ、状態を観察して作成し、ケアへと結びつけれる様に取り組んでいる。	
34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・更新時に介護区分に変更があった場合、入・退院による状態に変化があった場合、家族と話し合い新たな計画を作成している。 ・6カ月に1度、アセスメントを行っている。 ・今年度より、3ヶ月に1回のモニタリングを2ヶ月に1回を行い、介護計画に繁栄している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35 個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>・日中、夜間帯の個別記録と、モニタリングを2ヶ月毎に行うことで、介護計画の見直しに取り組んでいる。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
<p>36 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・当事業所はデイサービスの他、居宅介護支援を行っているため、柔軟に対応するように配慮している。(デイサービス利用者、以前の担当ケアマネジャーの面会)</p> <p>・慰問会などが開催される際は、デイサービスより招待を受け、参加している。</p> <p>・デイサービスの温泉を利用し、年に数回入浴を楽しんでいる。</p>		
<p>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</p>			
<p>37 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>・定期的な警察の巡回、散歩の際は近くの小売店に協力して頂いて理解、協力を持っている。</p> <p>・中学生のボランティア活動を実施している。</p>		
<p>38 他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>・訪問看護による月2回の訪問、2ヶ月に1回の地域ネットワーク会議に出席し他事業所と話し合いをしている。公的居宅サービスを利用するための支援は具体的には行っていない。</p>		
<p>39 地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>・包括支援センターとの協働は、管理者が行っている。現在、権利擁護、虐待についての事例はないが、更正保護も含め下半期より研修会を予定している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入所者は今までのかかりつけ医に受診している。担当医が月2回往診に訪れ、必要な医療に対する、助言、指示等している。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・利用者の状態に応じ、主治医より専門機関への紹介をして頂いている。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・訪問看護の定期的な訪問。また、看護師常勤2名で、日常の健康管理の把握に取り組んでいる。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・定期的に面会し、状態を把握している。状態が安定している場合は、退院に向けた話し合いを医療ソーシャルワーカー、家族と取り組んでいる。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・医師より終末期と判断された時点で、家族との話し合いを行っている。 ・主治医、訪看、本人、家族の要望を聞き、情報を共有し統一した対応を行っている。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・主治医、訪看の連携、定期的な往診を行っている。 「出来ること、出来ないこと」については利用者一人ひとりのケースが違うため、その都度の対応になる事を家族に伝えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・家族及び保険医療関係者と十分に連絡を取り合い、話し合いができ、退所後の不安を取り除いている。具体的には、担当ケアマネージャーに依頼している。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
47 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・プライバシーを守る為汚染衣類、居室整理など本人と共に行うこともある。 ・入浴、排泄介助はできるだけ同性介助を行っている。		
48 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・担当、副担当が主体となり対応している。		
49 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・その日の体調・気分を考慮し、必要に応じて行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・外出時、行事の際も起床時の整容による声掛け、一部介助は毎日行っている。 ・散髪については、家族の同意を得ながら、2ヶ月に1度、来園してもらい行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事の前にメニュー紹介や食欲を高めるような盛り付けを行っている。 ・食事準備、後片付けは入所者と共に行っている。食事は職員も同席し一緒に楽しい雰囲気の中、食事ができる様同取組んでいる。		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・事業所の取り決めで喫煙者はいない。 ・好みの飲み物、オヤツは量を加減しながら提供している。 ・お酒は、行事の際に提供している。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・個人の排泄チェックを作成し排泄状態を把握し定時及び随時交換している、本人に合った排泄用品の選定をする事で告知を取り寄せる様に取り組み、オムツ、尿取りパットの使用を減少させている。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・週に1度は午前・午後に分け、ゆったりとした雰囲気の入浴出来るようにしている。 ・週3日と決まっているが、本人希望や失禁などでは、入浴日以外でもシャワー浴を行っている。		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・日中の離床、レクリエーションなどの活動参加により安眠を図っている。また、不眠を訴える利用者に対しては足浴を実施している。 ・中庭を見ながら軽い作業を行い、個別相談を取り入れている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・個人に沿った軽作業の提供や個別での買物、外食など行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お小遣い程度、本人管理している。 ・月1度の買物会の支援を行っている。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・敷地が広いため、常に戸外に出かけられる環境にあり、本人の都合でいつでも農作業ができる環境にある。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・各担当が個別で時間帯を決め、食事、買物を行い、気分転換を行っている。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望時、必要に応じて手紙を出したり電話の取次ぎを行っている。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・入所時、家族、馴染みの友人が気軽に面会できるよう説明している。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・内部研修の題材として取り上げ、全職員に周知することで、すべての職員が理解し認識して行動している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・過去に離園した利用者があり、夜間帯のみ施錠している。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・日中は利用者と共にホールで過ごしている。夜間帯は2時間毎(21:00～3:00)の巡回を行っている。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・薬、及び薬品に関しては、入所者が手の届かないところに看護師が保管、管理している。刃物などは調理室で管理し夜間巡回時、本数の確認をしている。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・緊急時のマニュアル(怪我、転倒他)を作成している。行方不明等の緊急事態に対して、緊急連絡網を作成し訓練を行い、救命救急講習も受講している。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・職員は利用者の緊急時に応急手当を行うことが出来る。全職員、普通救命講習を終了している。		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・年1回避難訓練を実施している。 ・行政主催の総合消防訓練へ参加している。 ・火災時の災害マニュアルを事務室に掲示している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
71	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
72	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
73	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染予防に努め、うがい、手洗いを徹底している。ポスター掲示し、呼びかけている。面会、来園者には手指消毒を呼びかけている。 ・マニュアルを作成し、常時閲覧出来るようにしている。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・毎日のまな板、調理器、布巾の消毒、冷蔵庫の定期的清掃を行い、食材の管理もできている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関前にプランターを設置、季節を感じる草、花が常時観覧できる環境にある。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者で作成した壁画や季節感のある装飾を掲示している。 ・玄関のポストカード、花など、季節に応じて装飾している。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・食卓テーブルのほか、廊下、テレビ前にソファを設置し、落ち着ける場所がある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・全員ではないが、使い慣れた家具を持ち込み、なじみの空間で落ち着いて生活している。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>・施設内には24時間換気が設置されている。また、季節に応じて加湿器、除湿機を各ユニットへ設置している。</p> <p>・暖房に関してはパネルヒーターを使用し、快適な温度、湿度の提供に努めている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>・手すりの設置、段差の解消。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>・日中の流れ、入浴時間、外出、行事等ポスターで掲示し事前に情報を提供する事で、混乱を防止している。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>・施設敷地内にビニールハウスがあり、野菜作り、収穫を行い、食事で提供している。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に 印をつけてください)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・毎月1回買物を実施、買物をする事で金銭感覚を取り戻し、気分転換にも繋がっている。
- ・雪国特有の冬期間外出が閉鎖的になってしまう事を防止するため、ビニールハウスを設置している。ハウスを設置したことで、利用者と共に畑作業が行えている。これにより気分転換が図られている。
- ・利用者に季節感を感じてもらうために、季節毎の行事(花火大会・ねぶた見物・もちつき・節分等)を多く取り入れている。
- ・離園防止のため、月2回は屋外機能訓練としてバスで外出し、気分転換を図り、利用者の心身のリフレッシュに繋がっている。